

北のとびら

vol. 100

平成26年3月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

特集

北海道舞台塾シアターラボ
舞台をもっとおもしろく！
いざ、成長を披露する本公演へ。

この人に注目

クスマ エリカ

街歩きアート

手から生み出す喜びを知る、
つくり人たちが暮らす山の郷
「ニセコエリア」

フォト・エッセイ

藤田 貴大

表紙作家の紹介

岡 理恵子





泊 篤志 (とまり あつし)
劇作家・演出家・飛ぶ劇場代表

1968年、北九州市生まれ。北九州大学に在学中、演劇研究会で上演作品の執筆・演出を担当。大学卒業後、(株)セガに入社しTVゲームのシナリオ作り等に携わる。1993年、北九州にUターンし「飛ぶ劇場」に復帰。以来、戯曲・演出を担当。1995年に劇団代表を引き継ぐ。1997年『生態系カズクン』で「第3回日本劇作家協会新人戯曲賞」受賞。1999年、『IRON』が第44回岸田國士戯曲賞最終選考(6作品)にノミネートされる。現在、北九州芸術劇場のローカルディレクターとして九州演劇界の底上げに努めているほか、全国各地でも活動中。

8

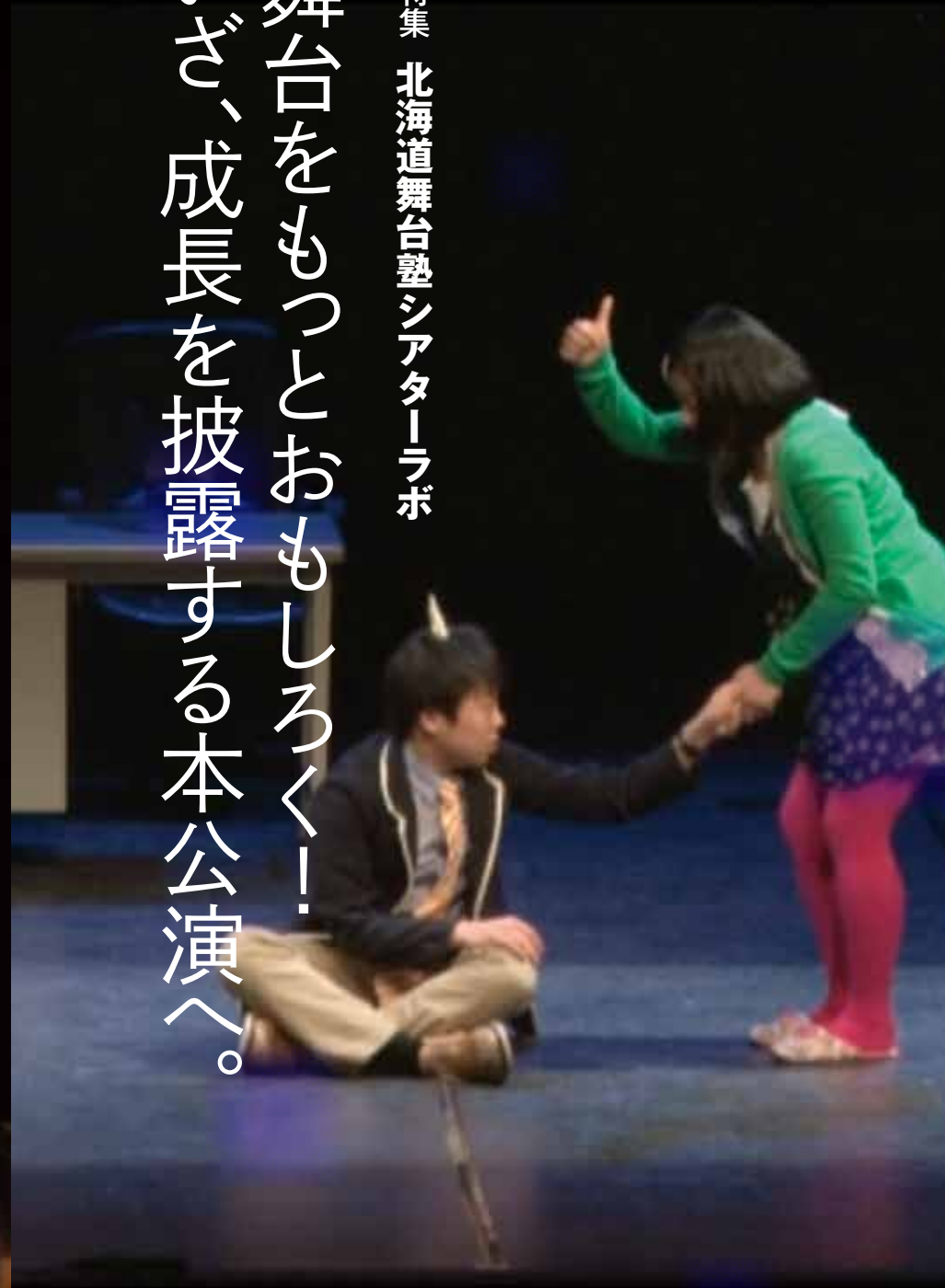


小佐部 明広 (こさべ あきひろ)
劇団アトリエ代表

1990年、札幌市生まれ。2011年に「劇団アトリエ」を結成。表現の可能性を模索するためさまざまなスタイルに挑戦しつつ、精力的に活動を展開している。2011年、第3回公演『もういちど』で札幌劇場祭の新人賞を受賞。

●特集 北海道舞台塾シアターラボ

舞台をもっとおもしろく!!
いざ、成長を披露する本公演へ。



北海道の若手演劇関係者が、道外で活躍する作・演出家(ドラマドクター)から脚本制作・演出・稽古方法等について指導を受けながら劇を創り、スキルアップを図る「北海道舞台塾シアターラボ札幌」。小佐部明広さんが泊篤志さんに、イトウワカナさんが柴幸男さんに、2年間にわたって指導を受けてきました。経過報告としてのプレ公演から1年、集大成としての本公演に向けて、芝居はどのように変化したのか。それぞれの作・演出家に聞きました。

対談

泊 篤志 × 小佐部 明広
柴 幸男 × イトウワカナ



柴 幸男 (しば ゆきよ)
劇作家・演出家・ままと主宰

1982年、愛知県出身。「青年団」演出部所属。「急な坂スタジオ」レジデント・アーティスト。日本大学芸術学部在学中に『ドミノ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年『わが星』にて第54回岸田國士戯曲賞を受賞。何気ない日常の機微を丁寧にすくいとり、戯曲と、ループやサンプリングなど演劇外の発想を持ち込んだ演出が特徴。全編歩き続ける芝居『あゆみ』、ラップによるミュージカル『わが星』、一人芝居をループさせて大家族を演じる『反復かつ連続』など、新たな視点から普遍的な世界を描く。

8



イトウ ワカナ
intro主宰

1981年、札幌市生まれ。2006年に制作を開始し、「intro」を結成。奇抜なポップ感覚で非日常を感じさせながらも日常的な言葉の教々を駆使した、ファンタジーとリアルの同居する世界観が特徴。普遍的な家族の会話劇や、コンテンポラリー演劇と称される詩的作品を制作するなど、作品性は多岐にわたる。近年は全国に活動の幅を広げている。2011年『蒸発』で札幌劇場祭演出賞、2012年『モスクワ』で札幌劇場祭作品賞受賞。

シアターラボ札幌公演
平成26年3/29(土)・30(日)
かでの2.7ホール
(札幌市中央区北2条西7丁目かでの2.7)

『彼女のスープレックス』作・演出/小佐部明広
29日(土)15:00開演 30日(日)16:30開演
『鈴木14世』作・演出/イトウワカナ
29日(土)18:00開演 30日(日)13:30開演
※会場は開演時間の30分前

料金: 1作品 1500円(日時指定)
2作品共通券 2500円(日にち指定)
問い合わせ:北海道舞台塾実行委員会事務局
(公益財団法人北海道文化財団内)
☎011-272-0501(平日9:00~17:30)

◁ 泊篤志 × 小佐部明広



説得力、熱量、動き。
劇団ごとレベルアップして
次世代を牽引してほしい。



脚本はもっと長くできる。
稽古での完成に頼りきらず
粘り強く書いていきます。

「彼女のスープレックス」は、「与えられたタイトルで芝居を書く」という試みですね

泊 外からの要因と、自分の中にあるものを結びつけて書く。創る過程としておもしろいですし、新たな発見があります。

小佐部 プロレス技からのタイトルですが、プロレスは知らないし、それに「彼女の」とって…悩みました。

泊 プロットが出てきたら、金融と、鬼と人間の差別の話。そこで漫画『ナニワ金融道』を読め、映画『パッチギ!』を観ろ、とアドバイスしました。

小佐部 知らずに書くとはばるんだなあ、と思いました(笑)。泊 小佐部くんは器用なので、知らなくても書いてしまう。でも一つひとつを調べて書くこと

で、芝居がリアルになり、説得力が生まれます。

「シニアターラボ」に参加して、内容は大きく変わりました

小佐部 今年になってバイトを始めて、稼ぐのは大変だけど使するのは簡単だなあ、と実感して。キャバクラで1000万円を使った男が登場しますが、自分もヤケになったらやりかねない、と考えているうちに、お金の

の話になっちゃいました。

泊 昨年の話の完成度を高める予定だったんですが、でも、関心の方向が変わったこと、それで物語が変化することも、この取り組みの成果としてアリだな、と。お金に関しての説明的なセリフが多いですが、役者が熱量を持って演じることで、いい芝居になると思います。

小佐部 今回はまず、泊さんが実験的に1週間、演出を付けて



泊さん演出による稽古風景を、隣で小佐部さんが見つめる

取り演出しないんですよ(笑)。今回、ベテランの役者に参加してもらいましたが…。

小佐部 勝手に動いてますね。泊 そういう人がいると、刺激されて他の役者も動きだす。それが芝居をどんどん膨らませていきます。

「シニアターラボ」に参加して、変化はありましたか

小佐部 以前はそれなりに脚本を書いて、稽古でなんとかなるだろう、と思っていました。でも今は、演出次第で良くなりそ

うだけど、脚本はもつと良くなる、おもしろく書けるはずだと感じて、納得いくまで書くようになりました。

泊 それを聞いて安心しました(笑)。作家・演出家が変わろう

◁ 柴幸男 × イトウワカナ



「プレ公演では、それぞれの演出で『鈴木14世』を上演しました

柴 年齢も近いですし、僕は教えるという柄でもない。「僕なら、話のこの部分を変えて、こ

う演出する」というのを見て、何か学んでもらえれば、と。

イトウ 柴さんの演出を見て「私はなぜこう演出しないのかな」と不思議でした。やりたく

制作過程を見せ、話し合い、
2年間でゆるやかに
変化してくれたら、と。

でもできないこともあるし、では、自分はなんだったらできるのか。考えさせられました。

柴 平田オリザ師匠は「演出には流行り廃りがある、新しさこそが価値」と。だから、いかにかどうかを他人が判断できない、それぞれが考えてやるしかない。脚本は逆に古き、普遍性に価値がある、と言っています。

イトウ 脚本という点では、プレ公演で「自分の戯曲は雑だなあ」と感じました。演出で乗

り切ろうとせず、脚本をきちんと書かねば、と思いました。

「お互いに脚本を見せ合う」というドラマドクターでしたね

柴 作成中の脚本を随時メールして、変化の過程もしてもらいました。僕のやっていることをできるだけ見せて、何か吸収してくれたら、と。

イトウ そして、文通によるお互いの活動報告と、人生相談が主でした(笑)。劇団をどうし

クスミ エリカ

Erika Kusumi

この人
に
注目【写真】



「白の虚像 常世の樹海」 2012年制作 デジタルコラージュ

美しく、妖しく、ときに恐ろしく、胸に迫る暗さと希望を感じさせるほどの明さがある世界。それが、クスミエリカさんのデジタルコラージュ作品です。自身が実際に体感し、撮影した写真のみを素材としており、「『現実』を重ね合わせ、超現実世界を構成する」試みとして注目を集めています。

フリーランスのフォトグラファーとして各種プロジェクトに携わる傍ら、2008年に「現実の風景の撮影ではどうしても表現できないこと、物理的・空間的に不可能なことを表現したい」との想いからデジタルコラージュ作品の制作を開始。作家としてさまざまな企画展や個展を開催・参加しています。



2014年は「現実の物質を、形によらず作品に取り入れることができる」というデジタルコラージュの利点を生かし、異なる分野のクリエイターとの共同制作に挑戦すること。新しい作品世界の誕生が待たれます。

平成26年4月～5月に北海道文化財団アトスペースで個展開催予定。



「Planter:cyber fauna」 2012年制作 デジタルコラージュ

ていこうか、役者との関係はどうしたらいいか、とか。
柴 僕も愚痴を書いてメールして、互いにそこは返事しないんですが（笑）。人に伝えることで客観視できて、僕も自分の問題を整理できました。
ワカナさんは劇団主宰の演出家。劇団への影響が大きいので、作品性だけの工事は怖くも、一つだけいい作品ができて、ワカナさん自身が変わらないと意味がない。だからいろんなことを話し合っ、2年間でゆるやかに変化があればいいな、と考えました。



Introの公演「言祝ぎ」のアフタートークに柴さんが登場し、ドラマドクターとして語る

本公演は、同じ『鈴木14世』で新たな内容の脚本。展開はいいですか。
イトウ 同じタイトルで全く違う芝居が創れる、ということはお見せできると思います（笑）。柴 まだ途中ですが、すごくおもしろくなりそう。気楽に最後まで書いてほしいですね。
ひとまず最後まで書いて、寝て起きて、もう一度読むと、何がしたいのか、どう混乱しているのがわかる。そこで書き直します。おもしろい部分でも惜しまず捨てるのが大事です。
イトウ 私は登場人物を嫌いに



雑念を見極め、ぶれないところまでいきたい。書くことに向き合いたい。

なると、サクサク書けます。いや、ならないところもちゃんとジャッジできる。でも、そうですね、今、大事にしすぎて書きにくいのかもかもしれません。
柴 複数のやりたいことを一度に入れると、書けなくなりませんか。あと、褒められたい、今までと違う新しいことをしたい、おもしろくしたい、などの雑念があると書けない（笑）。
イトウ 雑念はすごくありますね（笑）。それを落として、冷静な目で書いたものを読むにはかなり時間がかかります。
柴 例えば「新しく」と「おもしろく」は、相反する願いだつたり、一方が強かったりします。どちらかを選ばないと、雑草が多すぎて芝居の花が咲かない、咲いても見えない。僕は最近、

一つの花をきちんと咲かせることこそが大事だ、と思うようになりまし。
イトウ 以前は、雑念をがむしゃらな気持ちで振り切っていました。でもこの先も書いていくなら、雑念の一つひとつと付き合っ、その中から雑念じゃないものを見つけないと戯曲を書くということに向き合いたいと思っっています。自分の中にある個人的なものに向き合い、人に何か言われてもぶれないところまでいきたいです。
柴 ワカナさんは会話劇にこだわつたら、いい武器になると思っいますよ。今回の作品もそうですが、家族間の会話がとてもおもしろい。楽しみです。

手から生み出す喜びを知る、 つくり人たちが暮らす山の郷 [ニセコエリア]

夏はアウトドア体験、冬はスキーマッカとして、
海外からも注目されるニセコエリア。
ニセコアンヌプリや羊蹄山など名峰がそびえる
風光明媚な土地には、豊かな自然環境に惹かれて、
アートやクラフトのつくり手たちが多く移り住んでいます。



「白樺林」

自然の中に満ちる、静かな生命力を描く ③ STギャラリー (倶知安町)

帯広出身の画家・徳丸滋さんのアトリエ兼ギャラリー。徳丸さんは画家仲間として神田日勝と親しい間柄でした。36年前にこの地へ移り住んでからは、重厚な油絵からアクリル絵具を使った透明感のある作風へと変化。樹々の枝や幹、雪などの緻密な描写は、山歩きをする日常の観察の中で生まれたものです。さらにチベット仏教にも造詣が深く、曼荼羅の考え方に基づく生命力の追求を大きなテーマとしています。ここではご子息のカメラマン・徳丸晋さんの作品も見ることができます。



●倶知安町山田74
☎0136-22-1765 ◎11:00~17:00
◎不定休(要連絡)
<http://www.nisekostdesign.com/stgallery/>

絵本のような、懐かしい心の風景画

④ 風山菴 (ニセコ町)

知らない場所なのに、どこかで見たような懐かしさ。版画家・府川誠さんがリトグラフで表現する山や畑の風景は、誰もが心に持っている記憶のかけらと呼び覚まします。府川さんはこの地に来る前から、今のような風景をイメージで描いていたと言います。どれも具体的な場所ではないそうですが、ニセコならではの透明で静謐な空気感に溢れています。近年は板絵にも挑戦中。アトリエ&ギャラリーは、アート施設を結ぶ「しりべしミュージアムロード」沿いにあります。



「薄暮」

●ニセコ町ニセコ404-30
☎0136-59-2211
※来廊前に要連絡
<http://www.fukawamakoto.jp>



手のぬくもりから生まれる帽子

⑤ The Mad Hatter, Niseko (ニセコ町)

どんなサイズも、お任せください——。帽子職人・沼尻賢治さんは、一人ひとりにぴったり合った帽子を、オールハンドメイドで製作しています。主な素材は、スコットランドの伝統的な手織りの生地「ハリスツイード」。手で作られたものの価値を、普段の生活で使い知ってほしい、と沼尻さんは言います。厳しい冬にも耐えるツイード生地は、この地の暮らしに適しています。冬期以外は月1回、自宅で受注会を開催。細かな要望にも応えてくれるので、理想の一品が手に入るはずですよ。

●ニセコ町曾我256-11
☎0136-55-8810
✉tmh-niseko@mbr.nifty.com
※完全オーダー制(要連絡)。
一部商品は「ニセコイル」(ヒラフスキー場)で取扱あり
<http://www.themadhatter-niseko.com>



「眠れぬ夜は」



柔らかく温かな鉄の世界

② RAM工房 (ニセコ町)

鉄の造形作家・澤田正文さんの工房。その名は、最初に工房を設立した札幌・羊ヶ丘にちなんでいます。取り壊し寸前だった元でんぶん工場を自ら改装し、理想の空間を作り上げました。鉄がふだんに使われた内装や家具、また「ゆかいな動物シリーズ」「ジャズシリーズ」などどこかユーモラスな作品は、鉄が持つ柔らかさと温かさに気付かせてくれます。ニセコののんびりとした環境が好き、という澤田さん。今後、等身大の大型動物などダイナミックな作品が生み出される予定です。

●ニセコ町曾我6-1
☎0136-44-1331
◎10:00~17:00
(ギャラリー一鐵)
◎定休日/火・水曜
(4月末~10月、11月~不定休)
<http://www.niseko-ram.com/>



「砂の旅人」



「思考」



陶芸家で羊飼いの二人が暮らす学び舎

① FAF (フロンティア・アート・ファーム) 工房 (倶知安町)

廃校の小学校の建物が、陶芸家の林雅治さんと幸子さんのアトリエとギャラリー、そして住居です。雅治さんは京都の陶芸家の家系に生まれ、前衛陶芸の先駆者・林康夫さんが実兄。幸子さんも京都で絵付けを学び、お二人とも京焼を基本に作陶しています。この地へ呼ばれるように移り住み、伝統的ではない作品を追求。しかも羊を約40頭飼育する羊飼いでもあります。生活の中で必要なものを手から生み出すのは、陶芸も羊も同じ。ここは本物の手仕事を知らぬお二人の理想郷です。

●倶知安町寒別103
☎0136-23-3949
◎10:00~17:00
◎定休日/不定休
<http://www.8.plala.or.jp/FAFKoubou/>



「カヤツリソウ」(皿)と、赤絵「蟹」(鉢)

column

自然の中で味わいたい、北海道の和菓子

⑥ ニセコ和菓子工房 松風 (倶知安町)



森の中にひっそりとたたずむ1軒の家。ここが、和菓子職人・渡辺麻里さんの工房です。渡辺さんが札幌から移り住んだのは2008年のこと。北海道は洋菓子のイメージがありますが、渡辺さんはニセコ地域で穫れる小豆や野菜、そして良質の水が和菓子に最適だと言います。特に水は、寒天を作ったときその美味しさに驚いたとか。

「私の和菓子は、畳の部屋でかきこまって食べるよりも、自然の中で食べるのが似合う、と言われます。色合いや自由な発想などが、北海道の和菓子になっているのだと思います。近年は美術館とのコラボレーションとして、アート作品から発想したものも製作。北の恵みと自然の中から生まれた和菓子も、まさにアートです。

●倶知安町ニセコ高原ひらぶら105-20
☎0136-22-6890
✉matsukaze@hirafu.net
※定期的に和菓子教室を開催。月に1、2回和菓子屋としてオープン。日程はホームページで随時告知。夏期のみ道の駅「ニセコビュープラザ」で干菓子の販売あり
<http://matsukaze.upas.jp/>



スキー帽「しろうさぎくま」



キャスケット

表紙作家の紹介



moriのプリント生地

岡理恵子 テキスタイルデザイナー
Rieko Oka

1981年、北海道生まれ。北海道東海大学大学院 芸術工学研究科卒。在学中にウィリアム・モリスの壁紙を木版で再現し、模様構成や作り方を学ぶ。以降、技法を発展させてオリジナルの「北国の壁紙模様」作りに取り組む。その後、より身近な布へと素材をひろげ、2008年から北海道を拠点に「点と線模様製作所」としての活動をスタート。身近な風景、動植物、季節や天気の違い、音、記憶などを題材に「暮らしの中でともに過ごしていける模様づくり」を目指し制作している。

- 2005年 北海道東海大学 大学院卒業
ミナベルホネンデザインアワード:プロダクト部門入賞
- 2008年 「点と線模様製作所」の活動スタート
- 2009年 「北の模様帖」というオリジナル生地を制作
各地で企画展をスタート
- 2010年 「倉敷意匠計画室」のマスキングテープをはじめとする
紙ものを「北の模様帖シリーズ」として発売
「ホビーラホビーレ」とテキスタイルや手芸キットをコラボレートし、
「北の模様帖」として発売
- 2012年 天使病院の小児エリアのアートワークデザイン
『ten to sen の模様づくり』がグラフィック社より出版
- 2013年 『北の模様帖 活版ポストカードブック』がグラフィック社より出版
展示販売「北の模様帖 2013」/大丸藤井セントラル1F



birdgardenのプリント生地



キツネノ小道



tanpopoの原画

文/写真 藤田貴大 Takahiro Fujita

あの町



あの町で、18歳まで過ごした。な
んで、あのころ、あんなに。あの町
から出てゆきたかったのだろう。は
やく、上京して。あたらしい渦のな
かに巻きこまれたかった。でも、な
んでだろう。あのころ、あんなに出
てゆきたかったのに。なんでだろう。
あの町を出てから、思い出すのは。
やはり、あの町のことだ。空は、東
山のほうから白んでゆく。朝霧の、
やわらかいヒカリのなかを、まいに
ち。学校まで歩いた。雪がとけて、
地面から。あたらしいものたちのに
おいがする。足のうらで砂利を踏む、
その感触を確かめながら。きのう、
あの子に、ああ言われた。きのう、
あいつに、ああ言ってしまった。な
んで、かんがえながら。つま先ばか
り見つけて、俯いて。学校まで歩い
た。放課後は、なだらかな坂道から。
内浦湾の海原に反射する、眩しいオ
レンジ色を眺めていた。町の出口な
のだとおもっていた、海は。海から



撮影：飯田浩一

藤田 貴大
(ふじた たかひろ)
劇作家・演出家・マー
ムとジブシー主宰

1985年生まれ、北海道伊達市出身。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。2012年6月～8月にかけて発表した三連作「かえりの合図、まっていた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。」で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。今日マチ子(漫画家)との共作漫画「mina-mo-no-gram」(秋田書店)や初の短編小説である「N団地、落下。のち、リフレクション。」(新潮社)の発表など、その活動は多岐にわたる。

向こう側は、外の世界。ヒカリのな
かへ飛び込むようにして、突き抜け
てゆけば。町からでてゆける。でて
ゆけたなら、もう帰ってこない。ほ
くは、外の世界で。生きていきたい
のだ、なんて。青臭くも、おもって
いた。でも、なんでだろう。いつしか、
帰ってくるために作品をつくって
た。あの風景に、帰ってきたくって。
町を出たのは、そうか。雪がとけは
じめたころ。三月か。駅まで見送り
にきてくれた、友だち。父さん。発
車する、汽車。遠ざかってゆく、町。
風景。忘れないために、きょうもつ
くる。

財団事業インフォメーション (平成26年3月～4月)

アートゼミ事業

●近藤良平ワークショップ参加者募集

人気ダンス集団「コンドルズ」主宰の近藤良平さんを迎えて、身体を使ってのコミュニケーション術を体験するほか、さまざまな動きを通して身体表現を磨くワークショップを開催します。また、鍼灸師・治療家の近藤燈子さんによる「カラダケア」のワークショップも合わせて体験できます。

講師:近藤良平
(コンドルズ主宰・振付家・ダンサー)

アシスタント:近藤燈子
(鍼灸師・治療家)



日時:平成26年3月25日(火)・3月26日(水)
各日19:00～21:00

会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ
(札幌市西区八軒1条西1丁目 ザ・タワープレイス1F)

対象:高校生以上 ※ダンス未経験者も歓迎

定員:30名(先着順)

参加料:無料

申込先:メール又は電話にて北海道文化財団まで
お申込みください。

✉murayama-w@haf.jp

☎011-272-0501

アートシアター鑑賞事業

●平成27年度公演企画募集

北海道文化財団では、平成27年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)に道内3カ所以上で実施が可能な音楽、演劇、舞踊等の舞台芸術の公演企画を募集します。

募集要項・申込方法

詳細は当財団のホームページ(<http://haf.jp>)にて、3月中旬にご案内します。

問い合わせ:

(公財)北海道文化財団 ☎011-272-0501

若手芸術家発表事業

●演奏家のためのアートマネジメント講座
参加者募集

道内で活動する音楽家を対象に、アウトリーチの意義や具体的な手法等を学ぶアートマネジメント講座を開催します。

講師:児玉 真
(財団法人地域創造・プロデューサー)
箕口一美
(キャリア・デベロプメント・アドバイザー)
大森潤子
(札幌交響楽団首席ヴァイオリニスト)

日時:平成26年4月19日(土)10:00～16:30

会場:あけぼのアート&コミュニティセンター
中ホール(札幌市中央区南11条西9丁目4-1)

対象:道内で活動する音楽家、音楽課程を専攻する学生

定員:30名(先着順)

参加料:無料

申込先:メール又は電話にて北海道文化財団まで
お申込みください。

✉hattori@haf.jp

☎011-272-0501

アドバイザー派遣事業

●高井浩子ワークショップ参加者募集

劇団「東京タンバリン」の演出家・高井浩子さんを迎えて、道内の演劇人を対象としたワークショップを開催します。

講師:高井浩子
(劇作家・演出家)

日時:3月20日(木)18:00～22:00

3月21日(金)14:00～22:00

3月22日(土)14:00～22:00

会場:札幌表現舎
(札幌市中央区北6条西6丁目第一山崎ビル2F)

対象:道内で活動する役者

定員:15名(先着順)

参加料:無料

申込先:リアル・アイズ・プロダクション

☎090-2057-5560